

令和4年度第2回 上伊那医療圏地域医療構想調整会議 議事録

日時：令和5年2月13日（月） 午後7時から午後9時まで

場所：上伊那広域連合 第1・2会議室（いなっせ3階）

参加者：参加者名簿のとおり

1 開会

2 あいさつ

伊那保健福祉事務所 所長 岩本 靖彦 より

座長 上伊那医師会 会長 前澤 毅 様より

3 会議事項

議事要旨

(1) 地域医療構想に関する将来意向調査の結果について 【資料1】

説明：事務局（県医療政策課）

質疑応答

【上伊那医師会 前澤会長】

今の発表の中で、医師を中心に看護師も不足しているというのは過去からの共通の課題ではないかということを改めて認識させていただいた。

【田中病院 柴事務長】

具体的対応方針の県共通様式というのがあるということだが、今回の将来意向調査で25年の意向、30年の意向は回答させていただいたが、将来意向調査と共通様式で答える対応方針というのはどのように違うのか。

⇒【県医療政策課回答】

具体的対応方針については、今回の将来意向調査で回答いただいた内容を概ね踏襲する形をとりたいと考えている。今回の将来意向調査でかなり内容の濃いご回答を頂いたため、具体的対応方針の回答に当たっては、今回の意向調査の回答内容をあらかじめプレプリントのような形で反映させ、必要に応じて加筆修正いただくようにすることを考えている。

【上伊那医師会 前澤座長】

資料7pの調査結果―地域の課題と将来あるべき姿について―のところだが、これは非常に大切な部分であり、病院では伊那中央病院さん、仁愛病院さん、町立辰野病院さんからは回答をいただいている。これは任意の回答ということだが、できれば長期療養を中心に今後この地域を担っていただく田中病院の武内先生から何

かこれに関してご意見をいただけないか。

【上伊那医師会 武内副会長】

将来どのようなことになるかということについては、今のところ長期療養病床を継続するという方針に変わりはない。現在も伊那中央病院、昭和伊南総合病院からの受け皿としてのベッドを確保している。不幸にしてそのまま当院で亡くなる方というのも多数いらっしゃるが、結局は施設にも入れない、自宅にも帰れない、そういった方々を受け入れているので、自院に関しては、これを維持するための職員、特に看護師の不足が懸念されている。看護師の高齢化も指摘されており、やはり年を取ると急変時の対応というのが後手後手に回ってしまうということがあるので、是非看護スタッフを確保できるような施策を県には検討していただきたい。具体的には、上伊那医療圏には駒ヶ根には看護大学というのがあるが、看護大学から地元の上伊那に就職される方というのはほとんどいらっしゃらないというのが現実である。他に上伊那医師会附属の准看護学院を医師会で運営しているが、人を集めるのがなかなか難しく、これには資金の問題もある。是非県からの資金の援助等をご検討いただきたいところである。実際に公立病院私立病院の約3~4割くらいは上伊那医師会附属准看護学院出身の方々であり、実際にはその方々が一気に抜けることというのはあり得ないものの、もし准看護学院がなくなってしまう事態になったとすると、医師が確保されたとしても医療圏は崩壊してしまうと考えている。この辺りを長野県としても考慮していただきたいと考えている。

【上伊那医師会 前澤会長】

付け加えさせていただくと、准看護学院を卒業後上伊那で准看護師または正看護師として就職される方の数というのは250名に及んでいる。この方たちの確保に当たっては各病院が血眼になって集めているという状況であるので、是非県には武内副会長がお話したようなことも含めて検討をお願いしたい。

他にはこの将来あるべき姿というのをご回答いただいていない病院の方、もしくは上伊那生協病院にご発言いただければと思うが、上伊那生協病院は今休眠している病床をまず8床を急性期として、次いで8床を慢性期として再稼働していくということだがこのような再稼働の仕方をする理由は何かあるのか。

【上伊那生協病院 小山事務長】

当院は医療型の療養病床を持っているが、最近多くなってきているのが透析の患者さんの長期療養である。上伊那は圧倒的に透析で入院できる病院が少ないので、そこはしっかりと役割を担っていく必要があると考えている。再稼働の仕方についてだが、先ほどから出ているスタッフの不足というのは自院でも深刻であり、医師の高齢化や後継者対策も課題である。そのような理由で休眠になっている。急性期のところは現在ほとんど包括ベッドになっている。当院では訪問診療を担っているため、今国の方針でもずっと入院ではなく、在宅に変える、時々入院という

風になっているが、訪問診療の患者さんも多くいらっしゃるので、具合が悪ければ入院して、治療してまた自宅に帰るという形の包括ベッドとしての8床の再稼働となると考えている。

(2) 外来医療体制について 【資料2】

説明：事務局（県医療政策課）

質疑応答 なし

(3) 地域医療介護総合確保基金の要望状況について 【資料3】

説明：事務局（県医療政策課）

質疑応答

【上伊那医師会 前澤会長】

毎年このような形で県から各医療機関に文書が来ているかと思うので、令和5年度はもう取りまとめられているが令和6年度以降で、各医療機関から要望等あれば提出いただきたい。

(4) 第8次長野県保健医療計画について 【資料4】

説明：事務局（医療政策課）

質疑応答

【箕輪町 柴宮健康推進課長】

医療計画の策定に関して地域医療構想調整会議を圏域連携会議とみなすということだが、これは地域医療構想調整会議と一緒に会議で医療計画の会議をやるということでもいいか。それとも別々でやるのか。

⇒【県医療政策課回答】

一緒に会議の中で圏域連携会議としての議題も行う。

(5) 保健所独自事項（昭和伊南総合病院新病院建設計画の進捗状況について）

【資料5】

説明：昭和伊南総合病院 倉田事務長

質疑応答

なし

4 その他

委員から議題の提案等 なし

5 閉会